

恩師訪問

小林清人先生



母校で勤務された方の近況をお伝えする「恩師訪問」。第八回目の今回は音楽一筋に多くの生徒を育てられた小林清人先生。六月六日(水)、同窓会館、羽城館にお越し頂き、元同僚の広報委員高島清子がお話をお伺いした。

最初に秋田高校に勤務された頃のことをお聞きしたいのですが

勤務したのは昭和六十二年四月から平成九年三月までの十年間で秋田高校で退職でした。学校の雰囲気は明るく、全体に活気があって良い印象で勤めることが出来ました。生徒は意欲的でしっかりしており集中力は素晴らしかった。また、感性の豊かな生徒が多かったですね。ただ、意外だったのは男子生徒が思っていたよりもおとなしかったことです。私は秋高の前に秋田北高校に十七年も勤務して女子高生のエネルギーとパワーを充分経験していましたので、そこからの想像で、秋高は元々男子高校だしもつとパンカラだろうと予測していたのです。

秋高での思い出をお聞かせ下さい。

秋高祭は印象深かったですね。みんなよく動き、自分たちで企画し、実行し、その自主的な活躍振りは目を見張るものがありました。特に思い出深いのは、平成三、四年頃だったでしょうか。芸能発表で「ハレルヤコーラス」を合唱することになったのですが、合唱部だけでは男声が足りず、どうしたものかと思案し、も



のは試しと柔道部の部員に声を掛けてみました。当時の柔道部顧問の船木賢咲先生(現矢島高校長)も快く引き受けてくださり、また、柔道部の生徒たちは朝練習があつて朝早いのはちつとも苦でないです。一生懸命朝に練習して「ハレルヤコーラス」を見事に合唱し拍手喝采でした。船木先生の話では卒業後の柔道部のコンパなどでも「ハレルヤコーラス」を歌っているそうです。

私は秋高ではブラバンの顧問

「全ての面で目を開け」

現在は北高OGなど指導

ところで先生はどんなきっかけで音楽教師の道に進まれたのですか。

小学校五年の時から合唱を始めたのですが、コンクールに出たりして音楽が好きになりました。山形県立米沢興譲館高校一年の時に山形大学に特設音楽科が出来、目標にして受験のためのレッスンを始めました。山形東高校に勉強の面で負けるなどハッパをかけられ、勉強、合唱部、レッスンと両立は大変でした。山形大学ではピアノを専攻、オーケストラ(o b)合唱など

問でしたが、長年合唱部の指導をしてきましたので、ブラバンはなかなか大変でした。強首温泉で五泊六日の強化合宿もしました。最後の晩は花火大会をしたりもしました。

甲子園には五回応援に行きました。片道約十七時間の往復でした。平成三年でしたか。夏の大会で優勝した大阪桐蔭高校と対戦した時のことは忘れられません。二点差で秋高リードの九回裏、2アウト、2ストライク、あと一球で勝

利というところでホームランを打たれ、延長十一回逆転で敗れた試合は今も「あと一球」の声と共に語り草になっている筈です。

吹奏楽部の顧問ではありましたが、長年手がけてきた合唱の指導もしたいと考えて両方の指導を試みました。受験校の故か、ほとんどが掛け持ち、腰掛け部員で定着しませんでした。それでも県の合唱祭やヴォーカルアンコンに出演しました。

今の秋高生にどんなことを望みますか。

昔から見聞きしてきた秋高生のイメージからすると優等生的でスケールが小さくなってきたのではなかろうか。政治や経済面のみならず、学問、スポーツ、芸術文化あらゆる面で目を大きく開き、外に向けて行動してほしい。目標をしっかりと定め、それに向かって進んでほしい(特に音楽を目指す人は)。

先生は現在どんな風にお過ごしでしょうか。

秋高を退職した後、秋田東高校で初任者研修、聖霊高校で音大受験生の指導などしました。今は北高音楽部OG合唱団や女声合唱団をいくつか指導しています。